

ななくり

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム広報委員会編集 発行人 園田 茂
〒514-1295 三重県津市大鳥町4 2 4 番地の1 電話 059-252-1555 (代表)
ホームページ <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL4/> F A X 059-252-1383

2011年を迎え

病院長 園田 茂

このところ、冬はより寒く、夏はより暑く長くなり、中庸な心地よい季節が短くなってしまった印象があります。世情もそうなのかも知れませんが、より極端な結論に集約されがちです。医療への風向きもこうあるべき論に傾きがちです。そのような環境のなか、私たちは歩を進めていきます。

全てのことのエキスパートとなるわけにはいきませんから、医療面では連携を進めています。我々の得意分野である脳卒中リハビリテーションや緩和ケアへの注力は院内での臨床活動のみならず、七栗セミナーなどでの外向けの啓発活動に及び、逆に急性期医療に関してはそれを得意とする病院にお任せする方向に向かっていきます。極端になりすぎぬよう、必要時の手術などは行いつつです。

人材育成面でも、藤田保健衛生大学の一員として活動するとともに、三重県の医療に寄与するため、MMC (Mie Medical Complex)にも参加し始めました。数年後には三重県の研修医、どのかたでも当院にリハビリテーションや緩和ケアを学びに来て貰える体制が出来るはずで

七栗サナトリウムが診療を開始したのは昭和62年で、25周年が近づいてきました。回復期リハビリテーション病棟を作るなどの折、順次改装をしていますが、リニューアルされていなかった部分への対応を改めて計画的に行っています。患者さん、ご家族とのコミュニケーションを大切にすると共に、居心地の良い住まいとしての機能も向上させていきたいと思っています。

今後とも、七栗サナトリウムをよろしくお願い申し上げます。



食を通して

事務部業務課食養 管理栄養士 堀内 薫

「食養」読んで字のごとく、食を通して入院患者さまの健康と栄養管理を行っている部署です。現在、管理栄養士5名、調理師10名と事務員1名で毎日入院患者様の食事を1日約500食作っています。

当院の食事は大きく分けると緩和患者さまのための「緩和ケア食」と嚥下障害（飲み込み困難）の患者さまに提供している「嚥下食」の二つが特徴的です。

まず、「緩和ケア食」ですが、治療や病状の進行により食欲の無い方には、全量の半分の「ハーフ食」や、更に食べられない時は1/4量の「クォーター食」等患者さまが無理なく食べることの出来る量を心掛けています。また、嗜好に合わせた食事として、麺類、お刺身、カレーライス等の提供により、少しでも口から食べて頂くことをモットーに日々栄養士が患者さまのお部屋に赴き直接聞き取りを行っております。

もう一つの特徴である「嚥下食」ですが、経口訓練開始のゼリー1品から舌で簡単に潰せる程度に調理工夫をされた食事までの「7段階」があります。食養だけでなく歯科医師、リハビリ医師、外科医師、言語聴覚士が「嚥下ワーキングチーム」を結成し嚥下障害の患者さまに対して、安全で飲み込み易くまた、美味しい食事作りのために検討を繰り返し改善を重ねています。現在、「嚥下食」の見直しを行っており、新しい形態や肉を軟らかくする調理工夫等で試作、試食により嚥下ワーキングチームにより検討されている最中です。

私達、食養スタッフは食を通して七栗の食の安全と栄養管理を責任持って行い、また、職員や患者さまとのコミュニケーションをとり気軽に食事に関して意見を言って頂けるような「開かれた食養」を目指して、日々頑張っておりますので応援宜しくお願いします。



(全 量)



(ハーフ食)



(クォーター食)

お伊勢さん健康マラソン大会に出場しました

お伊勢さん健康マラソン大会に出場しました。

七栗サナトリウムのTシャツ来て介護福祉士6名・看護師2名が5キロを走りました。

集団で走っているとみんなから「いい病院ですね」「よく知っていますよ」と声をかけられました。とても楽しく走らせてもらいました。皆さんも是非一緒に走りましょう。



脳卒中後の運動麻痺回復訓練の取り組み(2)

リハビリテーション部 和田陽介

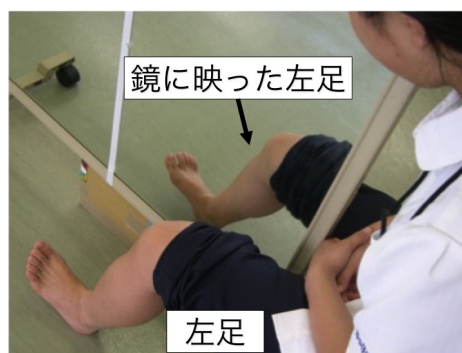
前号の「脳卒中後の運動麻痺回復訓練の取り組み(1)」では、麻痺した筋肉の活動を促すための電気刺激療法を紹介しました。この他にも七栗サナトリウムでは様々な麻痺回復を目指したアプローチを試みています。今回は「ミラーセラピー」と「促通反復療法」を取り上げます。

ミラーセラピーは、鏡を使用したユニークな麻痺回復訓練です。体の真ん中に立てた鏡に片方の手(または足)を映して覗き込むと、鏡の後ろに隠れているはずの反対側の手足を直接見ているような錯覚をおこします。写真の例では、鏡に映った左足(健常側)があたかも右足(麻痺側)であるかのように感じます。この状態で左足を動かすと右足も同時に動いていると錯覚するのです。運動麻痺が強い手足は使用頻度が減るために思い通りに動かす感覚が鈍くなってしまうのですが、このミラーセラピーでは麻痺した手足に「スムーズに動くイメージ」を与えながら運動することが可能です。高価な機器は必要なく少し大きめの鏡があれば実施できますので、療法士から運動のコツを伝授された後に自主トレーニングとして活用している患者様もみえます。

促通反復療法は、麻痺した手足の一つずつの関節を療法士が補助しながら反復運動する訓練です。最近の研究により、運動麻痺の回復に

は、意図した運動をたくさん行った方が良いことが明らかになっています。一方で、思い通りに動いてくれない手足に対して、ねらった運動を意図してたくさん繰り返すことはなかなか大変です。そこで、療法士が患者様の動かそうとするタイミングに合わせて必要な筋肉に刺激を与えながら運動を行います。ここで言う刺激とは、麻痺のある筋肉の特定部位を「コツンっ」と叩いて筋肉の反応を敏感にするのです。

脳卒中後の運動麻痺回復訓練の取り組みについて2回にわたり紹介させていただきました。七栗サナトリウムのリハビリでは、日常生活に必要な動作(食事や着替え、歩行など)の向上とともに、麻痺を少しでも改善するための訓練法を多数用意しています。患者様の症状に合わせた最適な訓練法を提供できるように日々努力しています。



今年も院内Xmasコンサート盛大に行いました 患者サービス・接遇委員会

今年も院内Xmasコンサート盛大に行いました。ゲストは、ボランティアのHAMAGUCHI・BANDの皆さんです。

参加者の皆さんがサンタの帽子をかぶり、小さな楽器をもちみんなでクリスマスソングや懐かしの歌を楽しみました。患者様の中には、自分のハーモニカをもって吹いている人もいました。とても楽しいひと時でした。皆さまありがとうございました。



病院からのお知らせ

外来医師担当表

平成23年1月11日現在

	月	火	水	木	金	土
内 科	松本教授	中野准教授	中野准教授	松本教授	寺澤准教授	※1交代制
外科(外科・緩和医療学)	東口教授	篠邊医師	天野医師	伊藤 准教授	定本医師	※2交代制
外科(上部消化器外科学)	櫻井教授 (PMのみ)	櫻井教授		櫻井教授 (PMのみ)	櫻井教授	
リハビリテーション科	園田教授	岡本医師	岡崎講師	前田医師	※3交代制	水野医師

※1 内 科 土曜日は松本教授・中野准教授・寺澤准教授が交代で診察します。

※2 外 科 土曜日は伊藤准教授・天野医師・篠邊医師が交代で診察します。

※3 リハ科 金曜日は第1・3・5週：成田医師、2・4週：田中医師が交代で診察します。

看護師就職説明会・見学会

就職説明会

1/29(土)・2/26(土)・3/26(土)・4/30(土) 10:30～13:00

会場：藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

10:30～11:00 病院概要・看護部紹介

11:00～11:30 病院内見学

11:30～12:20 昼食・交流会

12:20～13:00 テーマ別講義

テーマ別講義内容

1/29 回復期リハビリテーション看護について

2/26 緩和ケアについて

3/26 摂食・嚥下障害看護について

4/30 回復期リハビリテーション看護について

看護見学実習

回復期リハビリテーション病棟

3/29(火) 10:00～15:30

緩和ケア病棟

3/30(水) 10:00～15:30

申込方法：電話・FAXまたは電子メールでお願いします。

電話：059-252-3040 FAX：059-252-1383 電子メール：hp4kango@fujita-hu.ac.jp

職員募集のお知らせ

藤田保健衛生大学七栗サナトリウムでは「看護師」「臨床心理士(非常勤)」を募集しています。
お気軽にお問い合わせください。

詳細・お問い合わせ先は 〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地の1

七栗サナトリウム 業務課人事担当 西岡 聡

電話 059-252-1555(代表) FAX 059-252-1383 E-mail: hp-hp4@hp.fujita-hu.ac.jp